

1 進路の意思決定の課題

就職活動の意思決定をどう捉えるか？

相互理解の上での進路の意思決定

「学生の就職活動における進路選択をどのように考えたらいのか」が本レポートのテーマである。

私たちは、日常生活の中で数多くの選択をしている。選択に失敗したとか、選択した結果に満足できなかったという経験は誰にでもあるはずだ。では就職活動において「進路を決める」という意思決定(初職の意思決定)はどのようなものなのだろうか。「進路選択」は、後からもっと良い先はなかったのかと後悔しても、日常のありふれた選択のように簡単にやり直すことは難しい。たとえ転学や転職をしても、今より良い結果が得られるかどうか不明確である。

『就職白書2022』までは、就職活動時の学生と企業の相互理解の深まりが、企業の満足度の高い採用につながることに触れ、企業側の情報開示、そのための企業の自己省察の深まりの重要性を示唆してきた。図①が表すように「採

用コミュニケーション(情報開示)」が「企業の学生に対する評価」や、「総合的な採用満足度」に影響したという結果から、次のようなことが考察できる。

就職活動の中で、情報取得や企業との相互理解が深まることにより、学生の面接等での選考上のアウトプットの質(具体性や深さ)が上がる。そうした学生は企業から活躍イメージが湧き評価もされやすく、企業側は候補者に対する見極めの精度が上がるともいえる。実際に積極的情報開示により、「本来落とすべきではない学生を落としてしまっていた」と気づく企業も少なくない。(『就職白書 2020』P36)

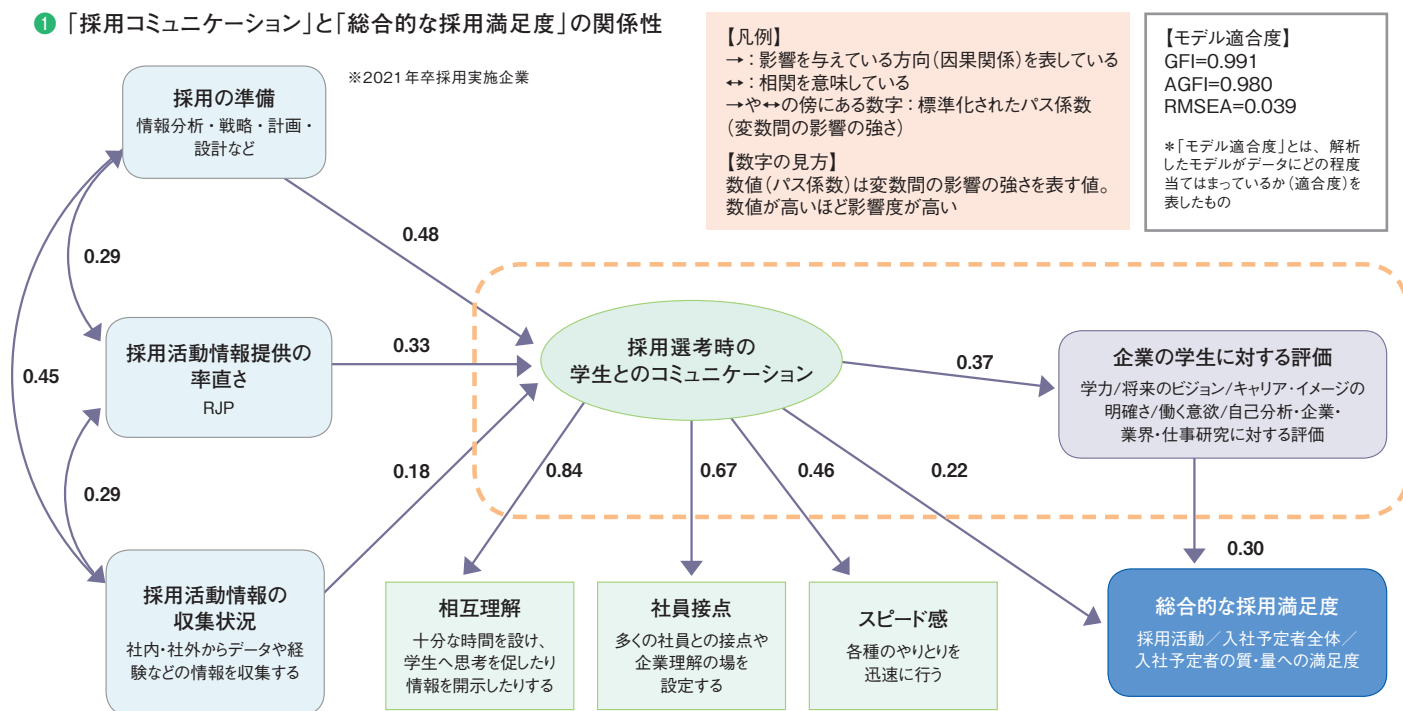
学生からすると、これは学生が自身の初職の選択に関して、自身と企業に対する説得力に足る十分な情報や思考をベースに「この企業に入りたい」と意思を持っている状態である。これらのことは、学生の就職活動の進路選択の在り方を考える際、今回私たちの重要な材料の一つとなった。

一方新卒採用現場の実態では、企業が求める人物像、学

企業

「総合的な採用満足度」に影響を与えているのは「学生とのコミュニケーション」であり、「採用の準備」などに取り組んでいる企業ほど、「学生とのコミュニケーション」に力を入れている傾向がある

① 「採用コミュニケーション」と「総合的な採用満足度」の関係性



採用プロセス

総合的な採用満足度に影響を与える因子を、採用プロセスの流れに沿ったモデルで分析した「パス図」。なお、「相互理解」「社員接点」「スピード感」は、「学生とのコミュニケーション」を構成する要素であり、パス係数が「0.84」と最も高い「相互理解」が、「学生とのコミュニケーション」を構成する要素として最も大きいと解釈できる。



生の評価基準に関する情報は、学生側から見ると極めて曖昧なまま選考が進み、入社に至るケースが多い点は「曖昧な情報マッチング」として述べてきた（『就職白書2021』P7）。曖昧な情報で入社意思決定をせざるを得ない状況が入社後のミスマッチの一因にもなりうることは注意するべきだ。つまり就職活動における進路選択は「入りたい」という一方的な意志だけでは決められず、双方の「マッチング（双方から選ぶ）」によって成り立っている。

そもそも進路先の決定は難しく、自分らしい進路選択とならざるを得ない。初職の進路選択は、その後の人生への影響が大きい一方でさまざまな課題をはらんでおり、私たちが（学生自身も）このテーマを深く考えることには価値があると思う。選択には多少の後悔はつきものであるが、受け入れたり、乗り越えたりできる範囲か否かが重要である。学生時の就職活動での進路選択を振り返ったとき、人生の中で意味があったと評価できることは望ましい。

※新卒採用・就職市場のその年の全体像のまとめについては『就職白書2023～就職活動・採用活動の振り返りと今後の見通し』を参照されたい。
※進路先の職場として「企業」でない場合もあるが、便宜上「働く職場全般」として「企業」と置く

社会人になってからも自分らしい人生を送るために、就職活動の進路選択をどう考えたらよいか、考察していく。

「決める機会」の増加

2022年卒以降、新卒の採用・就職活動はオンラインコミュニケーションが普及し、学生は企業の採用広報・選考機会参加の物理的なハードルが下がった。また、1人当たりの平均内定取得企業数は増加し、複数の内定取得企業から入社先を一つ選択するプロセス・機会が増加したことを示している（グラフ②、図③）。

複数企業内定を保有し続ける理由に着目すると、その一つに「内定先のどこに入社すべきか、自分自身が決断できない」（19.4%）がある（グラフ④）。インターネットやSNSの進化で多様なチャネルから情報収集できる時代でも、「入社先を選ぶこと」には一定の課題があると推察される。

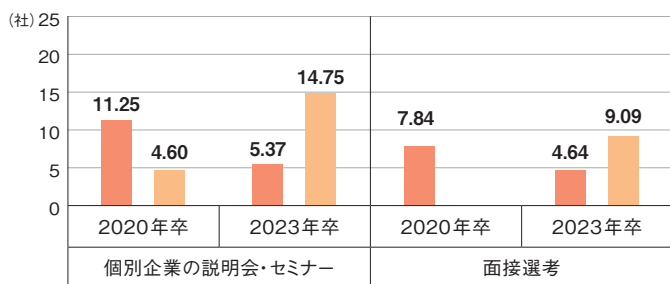
学生

4年で個別説明会平均参加社数は約4社増え、面接選考はWeb参加が平均約9社に

② 説明会・選考 平均参加社数

※各活動実施者/数値回答

■ 対面実施 ■ Web実施



※2020年卒はWeb面接選考調査取得なし

学生

学生の平均内定取得企業数は年々増加傾向

③ 平均内定取得企業数

※大学生の就職希望者のうち内定取得者/数値回答



出典③：2023卒 就職プロセス調査 12月1日時点調査

学生

約2割が「自分自身が決断できない」ために複数内定を保有している

④ 複数内定保有理由

※複数内定保有経験者/複数回答

